

山下居留地遺跡の活用方策に関する意見交換会 議事録

日時 平成 20 年 3 月 31 日 午後 14:00 ~ 16:00
 場所 神奈川県庁新庁舎 5 階会議室
 出席者 県文化課 太田氏・野村氏・福本氏
 県教育委員会 宮戸氏
 UR 沼田氏・木村氏
 設計(香山・アブル総合・アブルデザイン設計共同体(以下、アブル))
 中野氏・浜野氏
 山下居留地遺跡の価値を考える会(以下、会)
 島田氏・越智氏・兼弘氏・岡田氏、藤木氏、竹内氏、金子氏、倉澤氏、木内氏

山下居留地遺跡の活用方策に関して、以下のように意見交換を行った。

- 県活用案提示書 A3 判表紙共 7 枚配布、野庭保管所保管遺物写真(回覧)
- ・(浜野氏)県配付資料「埋蔵文化財発掘調査の活用方策検討資料」(別紙資料)に従って案の説明を行った。
- ・(中野先生)自分は保存を求める気持ちが強いが、プロムナード案に関しては計画的、技術的に地下ピットは難しく、従って、第 3 案が現実的である、と補足説明。
また、展示場所は B1 敷地内全体対象もありえる。
- ・(兼弘氏)会配付資料「(仮称)山下居留地遺跡プロムナードプロジェクト」(別紙資料)の説明を行った。
- ・(金子氏)150 周年記念事業として、未来に誇れる空間にすべきである。遺跡を後世に残す出来るだけ良い方法を見つけ、活用は後世に譲るくらいの考え方でもよい。
また、その本物性(真実性)は重要である。
- ・(中野先生)会の提案に大変共感する。各案(遺存レベル、地下埋設戻し(タイムカプセル)、地上保存)の組み合わせで検討する。
- ・(越智氏)自由通路の巾の件を確認質問---公開通路中心まで有効 1.5m
是非、検討委員会の設置と外部識者や専門家を交えて欲しい。
- ・(竹内氏)県の資料の比較表について、開発事業としての視点・評価だけでなく文化財保存としての視点・評価も入れて作成するべきである。
- ・(倉澤氏)活用計画について、やはり出土レベルで保存することが重要である。
- ・地下保存は露頭による劣化、安全面、展示方法、維持管理の面が非常に問題となる。
- ・(竹内氏)B1 と B2 の間の空地にこだわらず、B1 の地下駐車場のスペースの一部を流用して半地下式の遺跡公園を検討できないか?(面として残せるし風化・劣化防止も容易になるし、B2 の事業主らとの調整も不要になるし、工期的にも自由度が大きくなる)
- ・A、B1、B2 を含め非常に集客力のある事業なのだから、管理面のことは事業全体の問題として検討するべきである。また山下地区のネイミングを公募も考えている
- ・委員会や会の役割について、今後は、県、市、事業者、市民等で組織し、この問題を山下町全体のことと捉え、基金等も視野に入れた応援団となることが必要である。
- ・(兼弘氏)この活動は、近代埋蔵文化財遺構の今後の可能性の試金石となる活動である。
- ・(中野先生)関内地域周辺の他のエリアで近代埋蔵文化財の遺存する可能性のある場所への調査アプローチも重要で、市民活動としても可能ではないか?
- ・(藤木氏)地元の自治会等も大切にし味方に付けることが大変重要である。
- ・(岡田氏)この敷地は事業の失敗もつづき、マイナスイメージのある土地である。ここで良いイメージとすることで挽回できる。そうすれば神奈川県の事業として大変評価が高い。
- ・(中野先生)今後の活用方針について、プロムナードのみでなく 48 番館その他の公開空地、建物も含め、全体で検討に入る。そこで、以下の課題を短期間に処理することが求められている。

- 保存手法
 事業費(横浜市及び市民も協力できるであろう。)
 維持管理(造ったときはよいがだんだんと色あせて行くもの。地元の熱意が重要)
- ・熱意のある市民は大勢いるので、その力を借りるべきである。

以上